

(様式6-3)

研修等 報告書

H30年 8月 7日

三田市議会議長 今北義明 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	北 本 節 代	印
		議員名		
参加者氏名				
講演会等研修名	未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して in 大阪			
研修事項	<ul style="list-style-type: none">・ 大人のひきこもり問題を考える・ 不登校支援における行政支援と民間支援の相違点			
日 時	H30年 7月 17日 (月曜日)			
場 所	新大阪丸ビル別館			
所 見	別 紙			
添付資料				

6 添付書類 (講演会内容のパンフレット等)

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

所見

H30.7.17(月)

10時～12時30分

★ 大人のひきこもり問題を考える

ひきこもりは、単一の疾患などではなく、様々な要因によって社会的な参加の場面がせばまり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことを意味する。

少子高齢化が進み担税力のある現役世代が減少する中、近年は39歳以上の大人のひきこもりが問題となっている。これからは行政支援としてひきこもり問題に向き合っていかなければなりません。

ひきこもりは、長期化すればするほど、深刻な状態になり支援の難易度も上がる。そこで重要になってくるのが、未然予防です。

ひきこもりは不登校とも共通の要因が多くあり、就学期の段階での支援が予防につながり、予防することで、将来的なリスク軽減や支援に必要な予算を減らすことができる。

大人のひきこもりに対して厚労省は平成30年度予算で、生活困窮者支援の中の「就労準備支援・ひきこもり支援の充実」費として総額13億円を新たに計上しました。

しかし、現状の支援では、大人のひきこもりに対する対応としては、まだまだ不十分で、課題を解決すべくきめ細やかな支援を行うには、更に予算が必要になる。

行政には、現在だけでなく未来に向けた支援の取り組みが求められ、ひきこもり問題を、これ以上悪化させないため、また、長期化、深刻化する前に対応する「早期対応」と新しい発想の「未然予防」という視点が必要になる。

ひきこもり支援は本人だけではなく、家族に対しての支援を含めた様々な支援が必要だと感じた。

予算が限られているこれからの時代だからこそ10年後、20年後を見据えた社会投資としての行政支援に取り組んでいただきたい。

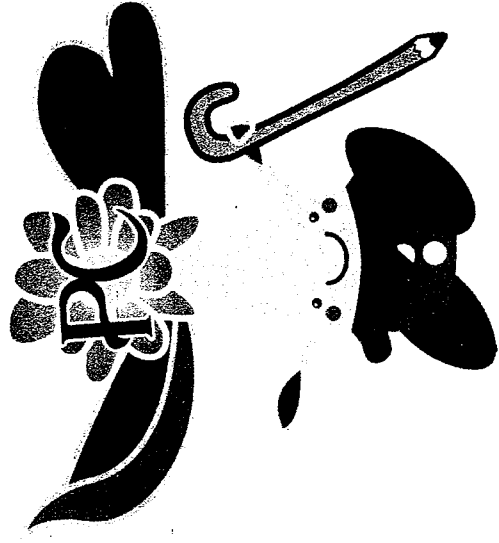
地方議員研究会 主催

未来を見据えた若者支援と親支援の充実を目指して②

～福祉と教育への社会投資が自治体にもたらすベネフィットとは～

不登校支援における行政支援と民間支援の相違点

～不登校支援と家庭教育支援の現場で活躍する支援者
から議員に向けての問題提起～



講師：山下真理子

(家庭教育支援センターペアレンツキャンプ)

山下 真理子（やました まりこ）

一般社団法人家庭教育支援センターペアレンツキャンプ所属
チーフ家庭教育アドバイザー



待っているだけでは解決できない不登校のケースに
対して、直接的に家庭に介入して支援をするアウト
リーチ型支援で多くの不登校の子どもたちを復学へ
と導く。

保護者に寄り添い日々の悩みを傾聴するカウンセリ
ングだけではなく、どのように対応をすれば子ども
の自立をはぐくめるのかなどを具体的にアドバイス
している。

長年臨床現場で培った経験やスキル、メソッドを用
いて楽しく学べる家庭教育の講演会を全国で多数開
催。難解な心理学や家庭教育の専門知識をわかりや
すく解説するセミナーを得意とする。